

武町のふれあいバス事業の見直しがなされていない。

現在の予算の2、900万円を超えない範囲で全市に公共交通のシステムを確立することが必要と考える。

その方法としては、デマンドタクシーが効率的なのではないか。

**A** 市長 より良い公共交通システムを研究して取り組んでまいりたい。

**Q** 安全遮断機のない踏切について、市内には安全遮断機のない踏切が2箇所あり、今後の市の対策について伺う。

**A** 市長 踏切はJＲとの協議が必要で、2箇所は踏切は遮断機を設置する整備対象ではないとのこと。安全対策として、1箇所は200m先に遮断機のある踏切があることから通行の制限を考えています。

**Q** 住民健診について、今後健診率の上昇を目指すことが重要と思われる。また、医療費の歳出削減のためにも予防施策が大切であり、20歳以上の健診も5

年に1度などの割合で検討されてはどうか。

**A** 市長 啓発運動に力を入れ、特定健診を定着させなければならぬ。これに1年ぐらいかかると思うので、大切なことと理解するが今後の検討課題としたい。

**公明党 関連質問**

川原 春夫 議員

**Q** 環境教育について、教育現場での取り組み、また市民への働きかけについて

**A** 市長 環境問題に対する認識の向上を含め、

取り組むところからしっかり取り組んでいきたい。教育長 環境問題に関する映画の上映・緑のカーテン・ゴミの分別収集等貴重な意見として参考にしていきたい。経済環境部長 できるところから前向きに進めていきたい。

**Q** 公営企業としての水道事業の健全な経営への取り組みについて

**A** 市長 水道事業は補助金でバランスをとって

きたが、将来を見据えしっかりと取り組んでいきたい。水道事業の趣旨は、将来、飲料に適さない地下水になる可能性を予見してのこと。住民の皆様を理解をいただき加入をお願いしなければならぬ。また、まちづくりには、地域を成り立たせていくためのコストがかかるという意識を皆様に理解いただくことが必要で、力を合わせ進んでいきたい。

**山政研 代表質問**

萩原 善和 議員

**● 財政問題について**

**Q** 市の財政状況と展望について伺いたい。また、庁舎・学校等の施設を最大限に有効活用することと、将来を見据えた小・中学校の学区再編、幼稚園・保育所数などの見直しについてどうか。

**A** 市長 財政については、相当に厳しい財政運営を遂行しなければなりません。

第一段階として、平成19年度財政調整基金の繰入金金が16億2、700万円とな

っています。その取り崩し規模を、平成22年度までに5億円程度にまで圧縮を図る必要があると認識している。さらに第二段階として、平成27年度までに、地方交付税算定替の優遇措置と優遇措置のなかった場合の一本算定との差額14億円が優遇されている部分で、この部分を削減するなどの財政運営計画をする。また、庁舎等の有効活用は、そのとおりであり、できる限り、現在ある施設を活かす中でやっていき、新たな手立てが生じれば、最小限に留めていく。また、人件費等を節約するため、できる限り民間活用を図りたい。

**● 消防団の機構改革について**

**Q** 防災体制は市民に直結する問題でありますので、関係機関等にて慎重なる議論が交わされていると思いますが、これまでの進捗状況と今後の見直しについて伺いたい。

**A** 市長 この問題は、山武市消防団の適正な規模というものが、財政面と

団員の確保の両面の問題があり、組織機構の改革は必要と思う。先の消防団員へのアンケートにおいても、部の統廃合は80%が賛成であるとの結果を得た。今後、12月上旬までに協議・調整を終え、年内には機構改革の一定の方向と素案をまとめ、消防審議会への諮問、

答申を経て、来年の当初の議会を目的に、条例案を提出したいと思う。いずれにしても、消防団・地域の方々の理解と協力を得て、安全な地域づくりに取り組んでいく。

**● 二次合併問題について**

**Q** この二次合併に対する考え方によっては、山武市の将来計画に大きな影響を与えるものである。よって、市民のトップリーダーである市長として、具体的な目標年度や市民をどの方向に引っ張っていくのか、将来のビジョンを伺いたい。

**A** 市長 現在、県の二次合併案の候補である横芝光町長とは、時々この件

については意見交換をして